

摂食機能療法専門歯科医師審査/更新ポスター | 摂食機能療法専門歯科医師審査/更新ポスター：摂食機能療法専門歯科医師更新ポスター

■ 2025年6月27日(金) 14:30 ~ 16:10 皿 ポスター発表7 (幕張メッセ展示ホール8)

## 摂食機能療法専門歯科医師更新ポスター

[摂食更新P-01]

長崎嚥下食デザートコンテストの開催

○三串 伸哉<sup>1</sup> (1. 森本歯科医院)

[摂食更新P-02]

研究活動報告と2段アングル内視鏡およびVoice Retrieverの開発について

○戸原 玄<sup>1</sup> (1. 東京科学大学摂食嚥下リハビリテーション学分野)

[摂食更新P-03]

1) 臨床指導 (所属機関や地域における活動)

広島県内の回復期リハビリテーション病棟を有する病院での摂食嚥下障害診療支援活動

○吉田 光由<sup>1</sup> (1. 藤田医科大学医学部歯科口腔外科学講座)

[摂食更新P-04]

摂食機能療法専門歯科医師としての地域活動

○飯田 良平<sup>1</sup> (1. ヒューマンデンタルクリニック)

[摂食更新P-05]

NPO法人摂食介護支援プロジェクトにおける歯科医師・歯科衛生士を対象とした嚥下研修～第2報 【教育活動】

○野原 幹司<sup>1</sup> (1. 大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能治療学講座)

[摂食更新P-06]

歯科標榜のない一般病院におけるのみこみ相談窓口の開設・診療と摂食嚥下プチナースの養成・指導の取り組み

○鰐原 賀子<sup>1</sup> (1. 日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科)

[摂食更新P-07]

埼玉県春日部市の歯科医院における通院患者への口腔機能に対する取り組み

○小池 丈司<sup>1,2</sup> (1. 豊春MJ歯科クリニック、2. 昭和医科大学歯学部口腔健康管理学講座口腔機能リハビリテーション医学部門)

[摂食更新P-08]

WEB会議システムを活用した摂食機能療法専門歯科医師の産休育休における継続的医療提供の取り組み

○石川 万里子<sup>1</sup> (1. 吉武歯科医院)

[摂食更新P-09]

日本老年歯科医学会摂食機能療法専門歯科医資格更新ポスター

○高橋 浩二<sup>1</sup> (1. 医療法人徳洲会館山病院口腔機能リハビリテーションセンター)

摂食機能療法専門歯科医師審査/更新ポスター | 摂食機能療法専門歯科医師審査/更新ポスター：摂食機能療法  
専門歯科医師更新ポスター

■ 2025年6月27日(金) 14:30 ~ 16:10 ■ ポスター発表7 (幕張メッセ展示ホール8)

## 摂食機能療法専門歯科医師更新ポスター

### [摂食更新P-01] 長崎嚥下食デザートコンテストの開催

○三串 伸哉<sup>1</sup> (1. 森本歯科医院)

【目的】2020年より長崎嚥下食デザートコンテストを開催してきた。コンテストの目的は摂食嚥下障害の啓発および美味しく食べやすい嚥下調整食の開発、普及である。【方法】例年7月頃より日本摂食嚥下リハ学会嚥下調整食分類コード0j~4に該当するデザートのレシピを募集した。9月に募集を締め切り、1次選考を行い、決勝進出者を決めた。11月の決勝審査では当日実際に調理したデザートを実食審査し、グランプリレシピを選考した。コンテスト終了後からレシピ集を製作し、完成後に無料配布した。【結果と考察】新型コロナウイルス感染症拡大で開催が危ぶまれたこともあったが、2024年までに5回のコンテストを開催した。毎回異なったテーマで募集部門も新設しながら開催し、1回目からそれぞれ、35件、22件、16件、12件、20件のレシピが集まった。応募者は摂食嚥下障害患者の家族や施設病院の職員、学生など様々であった。応募者においてはレシピ考案から決勝審査のプレゼンなどで摂食嚥下障害について学んでいた。コンテストの様子は新聞などのメディアを通じて報じられ広く啓発に繋がった。レシピ集は摂食嚥下障害に関する情報を加え、2000部印刷し、地域包括支援センターや病院、高齢者サロン、高齢者施設などに届けた。また、第2回のコンテストグランプリレシピは長崎の名物ケーキを食べやすくしたものであった。レシピをもとに長崎の老舗洋菓子店に開発協力を依頼し、高齢者施設で試作品のモニタリングを繰り返しながら商品化を目指している。コンテスト開催の問題点としては、募集告知が難しいことと開催費用が挙げられた。現状は福祉科や栄養科のある学校や高齢者施設、病院などに手当たり次第募集要項を郵送している。今後より広く、多くの人にコンテストへ関心を持ってもらい、参加してもらうために地域の掲示板やSNSでの告知が必要と考えた。費用については助成金を活用しているが、獲得できなかった年もあり、今後開催を続けていくために安定した収入源が必要である。また、レシピ集を配布するだけでなく、レシピを利用して嚥下調整食を作るワークショップやカフェで実際に患者や患者に関わる人へアプローチして行きたいと考えている。(COI 開示：なし) (倫理審査対象外)

摂食機能療法専門歯科医師審査/更新ポスター | 摂食機能療法専門歯科医師審査/更新ポスター：摂食機能療法専門歯科医師更新ポスター

■ 2025年6月27日(金) 14:30 ~ 16:10 ■ ポスター発表7 (幕張メッセ展示ホール8)

## 摂食機能療法専門歯科医師更新ポスター

### [摂食更新P-02] 研究活動報告と2段アングル内視鏡およびVoice Retrieverの開発について

○戸原 玄<sup>1</sup> (1. 東京科学大学摂食嚥下リハビリテーション学分野)

【目的】摂食機能療法専門歯科医師の更新にあたり、要件3の2020年4月1日から2025年3月31日までの3研究活動（摂食嚥下障害に関する論文、書籍等）について調べた。加えて新たに開発した二つの機器についての詳細を示す。【方法】研究活動についてはPubmed、医学中央雑誌等を用いて検索した。2段アングル内視鏡は嚥下内視鏡検査時に気管後壁が確認できないことから開発した。Voice Retrieverは往診で気管切開を行っている患者宅で時折人工喉頭を見かけることがあるが、1例も実際に使用している場面を見たことがなく、手の動きが悪いと機器を使いづらだけでなく、共鳴していない音のノイズを軽減させたいということから開発した。【結果と考察】論文、書籍等の数は原著論文92本（英語87、日本語5）、ガイドライン1本、活動報告・症例報告等8本（英語1、日本語7）、総説・解説93本（英語1、日本語92）、教科書1、著書40本（英語1、日本語39）、動画教材1本であった。2段アングル内視鏡は20人の健常者対象として、普通の内視鏡では3人で後壁が確認できたのに対し、2段アングルでは18人で後壁が確認でき、論文化できた(東京医科歯科大学歯学部倫理審査委員会承認番号D2021-067)。Voice Retrieverは機器を開発して有用性を示し論文化できたが（東京医科歯科大学歯学部倫理審査委員会承認番号D2020-071）、むしろエレキギターから着想を得てクラウドファンディング等を通じた開発過程に価値があると思われた。摂食機能療法専門歯科医師として十分な研究および開発などの活動ができていると考えられた。（COI 開示：なし）(東京医科歯科大学歯学部倫理審査委員会承認番号D2021-067、D2020-071)

■ 2025年6月27日(金) 14:30 ~ 16:10 ■ ポスター発表7 (幕張メッセ展示ホール8)

## 摂食機能療法専門歯科医師更新ポスター

[摂食更新P-03] 1) 臨床指導 (所属機関や地域における活動)

広島県内の回復期リハビリテーション病棟を有する病院での摂食嚥下障害診療  
支援活動

○吉田 光由<sup>1</sup> (1. 藤田医科大学医学部歯科口腔外科学講座)

【目的】申請者は広島県内の回復期病棟を有する某病院で診療協力を行っており、これらの活動を研究成果として発表もしているため報告する。

【方法】2009年1月より同じく別の病院から診療協力に来られている耳鼻咽喉科医とともに月に1回診療支援を行っており、今日まで継続している。ここでは、主治医等から依頼のあった10名程度の患者に対して、耳鼻咽喉科医による嚥下内視鏡検査 (VE) の後、共同で嚥下造影検査 (VF) を実施し、リハビリテーション計画を立案、言語聴覚士に指示し、1カ月後に再評価を行うという流れで臨床指導を行っている。さらに、検査結果より舌の筋力低下に伴う嚥下障害であると診断した場合、義歯の修理や裏装、舌接触補助床 (PAP) への改床といった治療も行っている。

【結果と考察】ここでの臨床支援活動の成果を以下の英語論文として発表している。

1) Yoshida M, Masuda S, Amano J, et al. Immediate effect of denture wearing on swallowing in rehabilitation hospital inpatients, J Am Geriatr Soc. 2013; 61:655-657.

上下顎での咬合支持のない8名の患者 (男性6名、女性2名、平均年齢82歳) に対して、検査当日に使用されていなかった義歯をその場で使用できるようにしてその前後でのVF結果より、咽頭通過時間が短縮していたことを明らかとした。

2) Yoshida M, Endo Y, Nishimura R, et al. Palatal augmentation prosthesis (PAP) can improve swallowing function for the patients in rehabilitation hospital. J Prosthodont Res. 2019; 63:199-201.

上下顎での咬合支持のない18名の患者 (男性13名、女性5名、平均年齢84歳) に対してPAP治療を実施した結果、2名の患者で誤嚥が解消し、3名の患者で咽頭残留物が消失した。また、咽頭遅延時間と咽頭通過時間は有意に短縮していたことを明らかとした。

このような日常の臨床活動を論文として公表していくことが摂食嚥下リハビリテーションの発展につながっていくものと信じている。

(COI 開示：なし) (広島大学大学院医学系研究科倫理審査委員会承認番号E-1151)

摂食機能療法専門歯科医師審査/更新ポスター | 摂食機能療法専門歯科医師審査/更新ポスター：摂食機能療法専門歯科医師更新ポスター

■ 2025年6月27日(金) 14:30 ~ 16:10 ■ ポスター発表7 (幕張メッセ展示ホール8)

## 摂食機能療法専門歯科医師更新ポスター

### [摂食更新P-04] 摂食機能療法専門歯科医師としての地域活動

○飯田 良平<sup>1</sup> (1. ヒューマンデンタルクリニック)

【目的】2025年問題がいよいよとなり、現場では栄養摂取方法や吸引などの指導も十分でなく在宅や施設へと患者が退院してくることも散見される。大学や病院での人材育成が進む中、現場で対応のできる人材を増やすことも急務であり、開業医でもその責務を果たすことが重要であると考え。本制度の第1章総則の第1条「高齢者に必要とされる歯科医療を提供するための摂食嚥下リハビリテーションに関する専門的な知識と技術を有する歯科医師を養成することにより、国民の健康と福祉の増進に寄与することを目的とする」にあるように、専門的知識や技能を有した本認定を有する歯科医師の地域貢献は重要である。更新に際して、このような観点から地域での人材育成や研修会の開催、啓発活動について報告する。

【方法】神奈川摂食嚥下リハビリテーション研究会、横浜市「疾患別医療・介護連携事業・摂食嚥下部門」、歯科医師・歯科衛生士会等での研修活動、フランス料理のシェフとの取り組みについて報告する。

【結果と考察】2008年3月設立の「神奈川摂食嚥下リハビリテーション研究会」では地区代表および副会長を務めている。「神奈川のみんなで行う食支援」をモットーに、県を8地区に分け様々な職種を世話人として配置し、嚥下相談窓口の開設や、嚥下・NST連絡票の作成、地域での研修会の開催、医療介護連携をしている。横浜市と医師会を主導とする「疾患別・介護連携事業」では、糖尿病、心疾患、摂食嚥下、緩和ケアの4つの課題について、医療・介護に携わる人材の対応力向上と連携の強化に向けたネットワークづくりを進めることが目的とされ、摂食嚥下部門の地域歯科医師会の代表として連携会議への出席や研修会の講師を担当した。フランス料理のシェフと共に活動を始め10年を経過する。講演会や調理師学校での講義・実習を行い、食べることが困難であっても外食できる飲食店が全国で確立するための活動を継続している。以上のように地域での研修会や人材育成、啓発活動について報告する。活動に際しては医療職や介護職との連携なども必須であり、本専門歯科医師制度の知識や技能は有益であると考えられた。

(COI開示：なし) (倫理審査対象外)

摂食機能療法専門歯科医師審査/更新ポスター | 摂食機能療法専門歯科医師審査/更新ポスター：摂食機能療法専門歯科医師更新ポスター

■ 2025年6月27日(金) 14:30 ~ 16:10 皿 ポスター発表7 (幕張メッセ展示ホール8)

## 摂食機能療法専門歯科医師更新ポスター

### [摂食更新P-05] NPO法人摂食介護支援プロジェクトにおける歯科医師・歯科衛生士を対象とした嚥下研修～第2報 【教育活動】

○野原 幹司<sup>1</sup> (1. 大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能治療学講座)

#### 【目的】

NPO法人摂食介護支援プロジェクト (DHP) は2006年に設立され、摂食嚥下障害の治療を担う歯科医師・歯科衛生士を育成するための研修事業を行っている。演者は設立時からDHPに理事として参加し、摂食機能療法専門歯科医師の資格を生かしながら研修プログラムの全体設計・立案・実行を担当してきた。今回の発表では、前回の更新時の発表以降の2019年1月から2024年12月までのDHP研修内容・実績について報告する。

#### 【方法】

DHPの研修記録を参照し、研修会の開催内容および回数、参加・修了者数を調べた。

#### 【結果と考察】

□ 内は開催回数を示す。

- ① 歯科医師 (医師) 対象研修：初級2日間コース117人修了 [4回] , 中級2日間コース64人修了 [4回] , 嚥下内視鏡マスターコース60人修了 [5回]
- ② 歯科衛生士 (看護師) 対象研修：テーマ1 間接訓練117人参加 [2回] , テーマ2 直接訓練117人参加 [2回] , テーマ3 観察ポイント115人参加 [2回] , テーマ4 食事支援・介助188人参加 [3回]
- ③ DHPキャンプ (テーマ1～4を2日間コースで開催) : 38人参加 [2回]  
(②, ③参加者のうち全テーマ修了した86人を嚥下トレーナーとして認定)
- ④ 嚥下トレーナー対象アドバンスコース：テーマ1 認知症・薬剤性嚥下障害52人参加 [2回] , テーマ2 胸部・頸部聴診40人参加 [2回] , テーマ3 血液検査・脳血管障害59人参加 [3回] (全テーマ修了した71人を嚥下トレーナーアドバンスとして認定)
- ⑤ 嚥下トレーナー・歯科医師対象Web研修会：呼吸器疾患60人参加 [1回] , 薬剤58人参加 [1回] , 嚥下関連手術26人参加 [1回]
- ⑥ 嚥下トレーナー・歯科医師対象Web症例検討：312人参加 [19回]

歯科医師・歯科衛生士に向けた体系立てた嚥下研修プログラムは全国的にも少なく、開始以来約20年が経つが研修プログラムを見直しつつ継続して事業を行っている。コロナ禍のため一時的に実地開催を見合わせたが、その間は修了・認定者向けのオンライン研修会や症例検討を開催することで事業を継続することができた。コロナ禍明けは久しぶりの開催となり参加者が減少するかと思われたが以前と同様の申し込み状況であり、歯科における摂食嚥下診療の底上げの一翼を担っているものとする。今後も引き続き開催を継続していく予定である。

(COI開示：なし)

(倫理審査対象外)

摂食機能療法専門歯科医師審査/更新ポスター | 摂食機能療法専門歯科医師審査/更新ポスター：摂食機能療法  
専門歯科医師更新ポスター

■ 2025年6月27日(金) 14:30 ~ 16:10 ■ ポスター発表7 (幕張メッセ展示ホール8)

## 摂食機能療法専門歯科医師更新ポスター

### [摂食更新P-06] 歯科標榜のない一般病院におけるのみこみ相談窓口の開設・診療と摂食嚥下プチナースの養成・指導の取り組み

○鰐原 賀子<sup>1</sup> (1. 日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科)

【目的】摂食嚥下機能の精密検査を実施可能な病院であっても、歯科標榜がないか歯科医師の関与がない場合には、摂食嚥下障害の診査診断に歯科的観点を欠く可能性があると思われる。演者は摂食機能療法専門歯科医師(以下、専門歯科医師)として、歯科標榜のない一般病院(以下、H病院)においてのみこみ相談窓口の開設・診療と摂食嚥下プチナースの養成・指導を行ったので報告する。

【方法】演者はH病院の医師、看護師、言語聴覚士、管理栄養士らと連携し1年間の構想・準備期間を経てのみこみ相談窓口の開設を支援した。これと並行し、摂食嚥下障害を有する入院患者に対して摂食機能療法を実施する病棟看護師を「摂食嚥下プチナース」(以下、プチナース)と称し、講義と実習によって養成を行った。また、言語聴覚士や養成課程修了後のプチナースらと共に週1回のプチナース回診を開始した。

【結果と考察】のみこみ相談窓口は2019年12月に開設し、2024年12月までにのべ46症例の診療を行った。摂食嚥下機能の精密検査への立ち合いのみならず、歯科的問題の抽出を目的として、実施可能な症例に対しては口腔機能評価を併せて行っている。また、2症例は短期入院にて受け入れ、入院下での摂食嚥下機能評価と摂食嚥下リハビリテーションを提供してきた。プチナースは6年間で38名を養成した。プチナース回診では摂食機能療法の適応症例として抽出された患者の口腔の評価を行い、口腔衛生に関する指導を継続している。また、プチナースによる摂食嚥下リハビリテーションの介入計画の立案に際して助言し、入院患者に対する摂食機能療法の実施を支援している。歯科標榜のない一般病院において、摂食嚥下障害患者の診療やプチナースの養成に専門歯科医師として関与することで、歯科的観点を交えた診療・リハビリテーションの提供が実現でき、患者・スタッフ双方に貢献できたと考える。一方で、歯科治療を要する患者が直接的に歯科受診につながりにくいことや、摂食嚥下リハビリテーション介入症例において、未だに口腔衛生管理が不十分な症例が散見されることが今後の課題である。

(COI 開示：なし) (倫理審査対象外)

摂食機能療法専門歯科医師審査/更新ポスター | 摂食機能療法専門歯科医師審査/更新ポスター：摂食機能療法専門歯科医師更新ポスター

■ 2025年6月27日(金) 14:30 ~ 16:10 ■ ポスター発表7 (幕張メッセ展示ホール8)

## 摂食機能療法専門歯科医師更新ポスター

### [摂食更新P-07] 埼玉県春日部市の歯科医院における通院患者への口腔機能に対する取り組み

○小池 丈司<sup>1,2</sup> (1. 豊春MJ歯科クリニック、2. 昭和医科大学歯学部口腔健康管理学講座口腔機能リハビリテーション医学部門)

#### 【目的】

口腔機能低下症や摂食機能障害に対して早期発見，早期対応を行う必要があるため，かかりつけ歯科医院における定期的な口腔機能管理は重要である。当歯科医院に通院中の60歳以上の患者を対象に口腔機能精密検査および必要に応じた指導および治療を行っているので報告する。

#### 【方法】

2024年4月から通院中の60歳以上の患者に実施した口腔機能精密検査（舌苔の付着程度，口腔粘膜湿潤度，残存歯数，オーラルディアドコキネシス（パ，タ，カ），舌圧検査，咀嚼能力検査，嚥下スクリーニング検査(EAT-10)），現在の食事形態，Eichnerの分類，基礎疾患を後方視的に調査した。

#### 【結果と考察】

対象者は12名で，年齢は平均73.8歳(60-84歳)であった。口腔機能精密検査の各項目の平均は，舌苔の付着40.3%，口腔粘膜湿潤度29.3，残存歯数23.0本，オーラルディアドコキネシスの「パ」6.3回/秒，「タ」6.1回/秒，「カ」5.6回/秒(最低値:4.2回/秒)，舌圧検査30.5kPa(最低値:13.7kPa)，咀嚼能力検査167.5mg/dl，EAT-10 2.7，該当項目数2.3で，口腔機能低下症と診断された者は6名であった。また，現在の食事形態は12名が常食であった。Eichnerの分類はA1が3名，A2が3名，B1が2名，B2が1名，B3が1名，C2が2名であった。基礎疾患は，特記すべき疾患のない者が4名，高血圧症2名，糖尿病2名，喘息2名，骨粗鬆症1名であった。検査結果にて，オーラルディアドコキネシスの「カ」の低値の者に舌の巧緻訓練，舌圧検査の低値の者に舌抵抗訓練を指導し，義歯作製前に検査を実施したEichnerの分類がB2の者に対しては義歯の作製および歯科治療を行った。認めなかった者に対しても，口腔機能維持の重要性を説明し，定期的な検査を啓発した。現在，常菜食を摂取しEAT-10で問題がある者は少数であったが口腔機能低下症は6名であった。このことより，機能低下を生じていても自覚症状とは直結しないことが考えられた。今後，このような方が様々な理由で摂食機能障害に移行する可能性があるため，定期的な口腔機能管理と，口腔機能の重要性の啓発を今後も行っていく。（COI開示：なし）（昭和大学 倫理審査委員会承認番号 2023-072-B)

■ 2025年6月27日(金) 14:30 ~ 16:10 ■ ポスター発表7 (幕張メッセ展示ホール8)

**摂食機能療法専門歯科医師更新ポスター****[摂食更新P-08] WEB会議システムを活用した摂食機能療法専門歯科医師の産休育休における継続的医療提供の取り組み**○石川 万里子<sup>1</sup> (1. 吉武歯科医院)**【目的】**

歯科訪問診療を受けている患者は、誤嚥性肺炎が重症化し入院を余儀なくされ、生活が困難になることがある。そのため歯科訪問診療において、全身状態に合わせ、嚥下評価を行い、訓練や口腔清掃などを行っていくことはとても重要であると考えられる。

そのような患者に対して継続的に医療を提供する必要があるが、摂食機能療法専門歯科医師が出産や育児のため診療ができないことがある。そのため、摂食機能療法専門歯科医師が多職種のスタッフに対し、研修や臨床指導を行うことで、産休育休期間でも質の変わらない医療を提供することは可能であると考えられる。実際、摂食機能療法専門歯科医師が産休育休を取得したが、産休育休を取得する前から臨床指導を行い、多職種が連携することで、継続的に医療を提供することができたことを報告する。

**【方法】**

摂食機能療法専門歯科医師が出産予定の半年前より、質の変わらない歯科医療の提供と、医院全体の摂食嚥下リハビリテーションに関わる多職種の基礎的知識レベル・技能レベルの向上を目的に研修と臨床指導を行っていった。

当医院の歯科医師、歯科衛生士、歯科助手や管理栄養士に対し講義や実習の研修会を、歯科医院内で2か月に1回程度の頻度で全12回開催した（出産前後を除く）。コロナ禍の影響もあり、対面での実施が困難な場合はWEB会議システムのZoomを使用した。産休育休取得前には摂食機能療法専門歯科医師が担当していた患者を共に診療し、カンファレンスを行うことで患者の経過や情報の共有と引継ぎを行った。カンファレンスにおいても対面だけでなくWEB会議システムを使用し、講義や実習の研修会とは別で、訓練の様子や経過の動画等を用いて情報共有を行った。

**【結果と考察】**

摂食機能療法専門歯科医師が、歯科医院のスタッフに対し講義や実習などの研修会、臨床指導を行い、多職種の摂食嚥下リハビリテーションの知識や技能を向上させることで、摂食機能療法専門歯科医師が産休育休期間においても患者に対し継続的な医療を提供することが可能であった。さらにWEB会議システムの使用により、頻繁にカンファレンスを実施することができ、スタッフが抱える診療における問題点や疑問点に対し、迅速に対応することが可能であった。

(COI 開示：なし)

(倫理審査対象外)

摂食機能療法専門歯科医師審査/更新ポスター | 摂食機能療法専門歯科医師審査/更新ポスター：摂食機能療法専門歯科医師更新ポスター

■ 2025年6月27日(金) 14:30 ~ 16:10 ■ ポスター発表7 (幕張メッセ展示ホール8)

## 摂食機能療法専門歯科医師更新ポスター

### [摂食更新P-09] 日本老年歯科医学会摂食機能療法専門歯科医資格更新ポスター

○高橋 浩二<sup>1</sup> (1. 医療法人徳洲会館山病院口腔機能リハビリテーションセンター)

#### 【緒言】

日本老年歯科医学会摂食機能療法専門歯科医資格を更新するためにポスターを提出する。テーマは教育活動である。

#### 【教育活動の概要】

1. 日本摂食嚥下リハビリテーション医療検討委員会における活動  
上記委員会において摂食嚥下障害の評価 2019、嚥下内視鏡検査の手順 2021、訓練法まとめ 2025、嚥下造影の検査法 2025 を作成。

2. 摂食嚥下に関する執筆活動

摂食嚥下に関する様々な専門書を執筆し、その代表例を紹介する。

① Groher & Crary の嚥下障害の臨床マネジメント 原著第 3 版 高橋浩二 監訳 発行：2023/1/25 医歯薬出版

② 口腔癌 発行：2023/9/10 医歯薬出版 3 章口腔癌治療後の摂食嚥下障害の診断と治療を担当

③ 最新聴覚言語学講座 臨床歯科医学・口腔外科学 発行：2024/3/10 医歯薬出版 7 章口腔機能障害に対する歯科医学的対応を担当

④ 今日の臨床サポート® 嚥下障害・摂食嚥下障害 著者: 高橋浩二 著者校正/監修レビュー済：2023/07/19 日本エルゼビア

3. 地域ネットワーク構築による摂食嚥下教育を令和 5 年度より開始した。令和 6 年度の講習会を示す。第 3 木曜日に行い、医師、歯科医師、看護師、ST、OT、PT、DH が参加している。

WEB 参加施設 昭和大学、武蔵野徳洲会病院、東京西徳洲会病院、館山病院、帝京大学ちば総合医療センター、四街道徳洲会病院、亀田総合病院、浅井病院、鋸南病院、鴨川市立国保病院

第 1 回摂食嚥下に関与する諸因子 I 発声、呼吸運動、鼻咽腔閉鎖機能、構音

第 2 回摂食嚥下に関与する諸因子 II 姿勢、唾液、栄養、脳神経 (迷走神経に focus)

第 3 回摂食嚥下機能 (= 嚥下機能) を理解しよう。

第 4 回高齢者における摂食嚥下障害のメカニズムと兆候

第 5 回摂食嚥下障害のスクリーニング法を理解しよう。

第 6 回嚥下造影検査・嚥下内視鏡検査

第 7 回嚥下障害の対応法である直接訓練を理解しよう (1)

第 8 回嚥下障害の対応法である直接訓練を理解しよう (2)

第 9 回嚥下障害の対応法である間接訓練を理解しよう (1)

第 10 回嚥下障害の対応法である間接訓練を理解しよう (2)

第 11 回症例検討会

4. (社) 日本歯科衛生士会摂食・嚥下リハビリテーションコース講師を毎年務める。

5. 毎年 2 回市民講座を開催。

本ポスター発表に関連し、開示すべき COI 関係にある企業などはない。

